

名城大学機械会誌

発行所

名古屋市天白区塩釜口 1 丁目 501 番地
 名城大学理工学部機械工学科内
名城大学機械会
 TEL (052) 832 - 1151 (代)
 FAX (052) 832 - 1235
 URL: <http://meijo-kikaikai.jp/>

名城大学機械会 第 60 回総会のご案内

下記のように第 60 回総会を開催します。
 会員諸氏の多数のご出席を心よりお待ちしております。

名城大学機械会 会長 江上 登

- 日 時** 平成 29 年 6 月 11 日 (日) 9:30 ~ 10:20
- 場 所** 名城大学天白キャンパス 共通講義棟南館 S402 教室
- 役 割** 司会者、開会の辞、会長と学科長の挨拶
 議長団選出 (議長・副議長・書記・議事録署名者)
 議事 ・28 年度事業報告
 ・28 年度会計報告及び監査報告
 ・29 年度事業計画案
 ・29 年度予算案
- ★定年退職教員へ記念品贈呈
 ★新任教員の紹介
 ★新役員及び新評議員紹介
 ★名城大学機械会設立 60 周年記念事業説明
- ☆理工同窓会 記念講演・・・10:30 ~ 11:40 S201 号室
 講師・・・名古屋大学未来社会創造機構
 名古屋大学プラズマ医療科学国際インベーションセンター
 名古屋大学工学研究科附属プラズマナノ工学研究センター兼任
 堀 勝 教授
 演題・・・プラズマによる地球創生
- ☆理工同窓会総会・・・・・・11:50 ~ 12:45 S201 号室
- ☆懇親会・・・・・・13:00 ~ 14:30 タワー 75 15F レセプションホール



■名城大学正門アプローチ (平成 29 年 3 月竣工)

集おう機械会 設立 60 周年

名城大学 機械会 会長 江 上 登
昭和 41 年卒



機械会会員の皆様におかれましては、益々お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

名城大学の機械工学科はその前身を含め、名城大学開学以来 90 年を迎えましたが、言い換えると、機械工学科は名城大学とともに 90 年の長い歴史を歩んできたことになります。

機械工学科の卒業生約 12,500 名で組織されている名城大学機械会は昭和 32 年に、当時の機械工学科の教員を中心として設立されて以来、60 年の歳月を積み重ねました。

名城大学正門の横の桜並木は設立 20 周年で植樹したものであり、今では毎年春になるときれいな桜が満開になり、教職員や学生のみならず、近所の人たちの目を楽しませてくれるまでになりました。

歴史は振り返るとその重みが伝わってくるものです。

さて、この度、名城大学機械会設立 60 年を迎えるにあたり、機械会としては 60 周年記念事業を企画し、実行委員会を設置して活動を展開しております。

60 周年記念事業は、1. 記念式典 2. 記念講演会 3. 記念祝賀会 4. 記念誌の発行 5. 名城大学機械工学科への援助基金の設立などであります。

なかでも、記念講演会の講師は、2014 年ノーベル物理学賞を受賞なさいました天野 浩名古屋大学教授にお願いすることができました。大変ご多忙の中、ご講演をお引き受けくださり、機械会としても歴史に残る

快挙といえます。

記念式典・記念講演・記念祝賀会は本誌裏面に詳しく記載されておりますが、平成 29 年 11 月 11 日（土）にホテル名古屋ガーデンパレス（名古屋市中区錦 3）で開催します。

機械会会員皆様とともに 60 周年をお祝いしたいと存じます。

そして、ノーベル物理学賞受賞者の天野 浩先生のご講演に触れていただきたいと存じます。

集おう 60 周年～未来に翔けるメッセージ～
をスローガンに開催する 60 周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会にぜひ多くの卒業生の皆様が参加くださいますようお願い申し上げます。

小生、機械会の会長を引き受けてから間もなく 2 年になろうとしております。この 2 年間で何ができたろう？と自問すると、機械会の活性化は中途半端な状態で、まだまだ自分の思うレベルには到達しない状態で、歯がゆい思いをしています。

どうか機械会の活性化にお力をお貸しいただける方がお見えでしたら、ぜひご協力をお願いします。

皆様の積極的なご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍・ご発展とご健勝をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。

■■■■■ 機械会からの重要なお知らせ ■■■■■

「名城大学機械会誌」の送付について

機械会では、毎年発行している会誌を平成 28 年度より、機械会ホームページにて印刷出力可能な様式で公開しております。

平成 30 年度からは、経費節減を目的として会員の皆様に送付している印刷版「名城大学機械会誌」の発行部数削減を図る考えであります。

つきましては、引続き会誌送付をご希望される方は、同封の「郵便はがき」に会員情報をご記入のうえポストへ投函くださるよう、お願いいたします。

機械工学科の近況報告

機械工学科

学科長 藤山 一成



今年度から機械工学科の学科長を務めさせていただきます藤山です。日頃、機械会の皆様から暖かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。私は以前平成 23-24 年度に学科長をさせて頂いていましたが、その最後の半年間、健康上の問題から職務を果たすことができず、皆様に多大なご迷惑をおかけしました。その後、健康状態も回復いたしましたので、ご恩返しということもできませんが、精一杯務めさせていただきたいと思っています。

さて、機械工学科は、現在教員数 15 名で平均年齢が 50 歳、内訳は 30 代 2 名、40 代 7 名、50 代 2 名、60 歳以上 4 名となっています。昨年度は福田康明先生が定年退職され、今年度は吉川泰晴先生が新たに教員となりました。

福田先生は、その人情味あふれる人柄と、筋の通ったご発言で学科を導いていただきましたが、今後とも機械会などの場で私どもに喝を入れて頂けるものと思っております。

新任の吉川先生は、本学科の卒業生ということで、その誠実・温厚な人柄から本学科と機械会を密接につなぐ若手キーパーソンとして今後の活躍が期待されています。

現在、機械工学科は、「熱・流体」、「材料・強度」、「設計・生産」、「運動力学・制御」の 4 分野で構成され、機械工学の主要分野をバランスよく網羅しています。本学科では体験型学修を重視しており、例えば 1 年次から「機械工学実習」で、実際の機械加工技術を体験するカリキュラムを組んでいます。また、3 年次の「機械設計・製作」では、少人数グループでの小型機械の発想、設計、製作、完成品の試験・評価、改良の PDCA サイクルを 1 年かけて実践します。

昨今、世界的に第 4 次産業革命ともいわれる IoT (Internet of Things ; モノのインターネット) の時代に突入しているといわれ、モノにかかわるあらゆるプレイヤーをインターネットでつなぐことによって、ニーズに即応した製品を効率よく提供するシステムの構築

が進んできています。このような状況下においても重要なことは、機械工学の基礎をしっかりと身に付けることと、グローバルなコミュニケーション力を養うことであると考えています。そのため、学部や大学院で技術英語に関する講義も行っています。

国際活動においては、アブラハ先生と大島先生が中心となって、昨年度から「機械におけるグローバル設計交流研修～機械設計製作異文化交流～」を実施しています。このプログラムは、本学科の中心科目である機械設計製作を履修した学生と米国学生との機械設計に対する考え方の違いを、エンジニアリング・デザイン・ショウケースに出展・参加することによって体験し、専門領域に根ざした国際交流経験や英語の実践的な運用を体験することで、グローバルな視点を持った機械技術者の育成を目指す取組みです。相手校は、機械設計製作と類似の授業を実施している米国カリフォルニア大学 (デービス校) で、同一テーマでのプロジェクトを両校それぞれで行い、デービス校で 7 学科が参加して行われるショウケースに出展し、企業や一般参加者からレビューやエキスパートフィードバックを受けることによりグローバルな設計感覚を身に付ける機会が得られます。実際に参加した学生の成長も著しいことから今後も推進していきたいと考えています。

さらに、企業の倫理面での問題が社会的に大きく取り上げられることも多くなり、技術者倫理がますます重要となってきていることから、「機械技術者倫理」の授業において、実際の企業で活躍されてきた講師の先生から体験に基づく技術者の心構えを語っていただいています。

以上のように、社会の変化を認識しながら、教育と研究に着実な改善を積み重ねていくことが私どもの使命と考えており、機械会の皆様の一層のご支援・ご指導のもと努力して参りたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2016 年度就職状況

機械工学科 就職・進路支援委員 福田 康明



最近では株価上昇や円安に伴う景気の回復が見られ、学生の就職は売り手市場となっている。このような経済環境下において、本学科における求人数は約 14,000 件となっている。これを就職希望者の一人当たりの求人数で見ると約 100 社となり、機械技術者のニーズが高いことと、本学卒業生の社会的評価の高さが伺えます。

一方、採用活動では経団連のルール変更により、企業説明会は 3 年生の 3 月と変わりはないが、面接などの選考は 4 年生の 8 月から 6 月にそれぞれ解禁時期が変更され、昨年度より 2 ヶ月早まっている。しかし、中堅・中小企業や外資系企業の多くは例年の採用時期と大きな変更が見られず、4 月以降から選考が開始されており、また大企業においてもマッチング面談、ジョブマッチング面談等が実施されており、経団連の採用活動指針が形骸化している。しかしながら最終面接や確認面接等は 6 月 1 日以降に実施する企業が大半であった。

企業への応募方法には学校推薦（大学から推薦書を貰い受験するケースで内定後には辞退できない）と自由公募（個人が自由に企業を選択して受験するケース）に大別されるが、学校推薦での割合は大学院生では 70%、学部生では約 30% となっている。学部生の推薦が少ない理由には、理工学部での推薦基準が有り、大手企業（従業員 1,000 以上）の推薦は、学業成績が学科の 1/3 以内の成績であることと、自由応募を選択する学生が多くなったことが上げられる。しかし、採用状況では推薦希望者の採用率が必ず高いとは言えず、人物本位の評価になってきている。

採用選考においては「入社への意欲や熱意」、「コミュニケーション能力」、「自己分析・自己 PR」が評価ポイントとなっており、特に「入社への意欲や熱意」に関しては、「何がしたい」ではなく、「何故したいのか」「何が出来るか」が重要となっている。その為には「知的能力」「応用力」「創造力」及び「問題解決能力」の素養を修得することが必要となる。

最近の就職状況の特徴としては、①推薦であるが採用枠を決めず、希望者を受験させ、マッチング面接やジョブマッチングを行い、その後合格したが者に推薦書を提出させる。②夏季や春季にインターシップを実施した成果を採用の判定に反映させる（最近ではインターシップの希望者が急増している）。③後付推薦書の提出を要求する企業が多く見られる（推薦書は就職試験する前に提出させるのが通常であるが、採用人数の

確保のためと考える）。④求人は全国の企業から依頼があるが、多くの学生は地元企業への希望者が多い。⑤派遣企業への採用数が増加している等である。

学部生の就職内容について述べると、資本金 10 億以上 53%、1 億以上～10 億未満 20%、1 千満以上～1 億未満 25% となっている。また従業員数別では 1,000 名以上 50%、500 名～1,000 名未満 16%、300 名～500 名未満 15% であり、大企業への就職が多くなっている。業種別では製造業 75%、サービス業 22%、となっている。一方、地域別の就職状況を見ますと、東海地区が 87% を占め、関東地区 11%、近畿地区 2% となっており、地元企業への就職率が非常に高くなっている。

今後では益々グローバル化が進展していく時代に於いて、本学科ひいては名城大学が発展していくためには、全国各地区および世界で活躍する子人材の育成が不可欠な条件であると思われませんが、現実には地元企業への就職率が高く、今後では入学試験を含め、検討していく必要があると思われる。

最後に機械会の皆様には今後共ご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以下、就職先主要企業名を掲載しますが、大学院及び学部生とも希望者全員が進路や就職先を内定することができました。

[大学院]

アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン高丘、アスモ、三五、JR 東海、新東工業、シンフォニアテクノロジー、CKD、ジェイテクト、住友電装、大同特殊鋼、ダイフク、トヨタ自動車、トヨタ車体、トヨタ紡織、東海理化、ノリタケカンパニーリミテッド、パロマ、富士機械製造、武蔵精密、メイドー、ヤマザキマザック、博士課程進学 (2 名)

[学部]

アイコクアルファ、愛三、アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン機工、アイシン精機、アイシン高丘、アイホン、青山製作所、アンデン、IHI ターボ、エナジーサポート、オーエスジー、オテックス、岐阜プラスチック、協豊製作所、KYB、小島プレス、ジェイテクト、大豊工業、大和ハウス、東海交通機械、東海理化、豊田合成、トヨタ車体精工、豊田鉄工、豊田バンモック、トリニティ、日本特殊陶業、トヨタ紡織、ニッセイ、不二越、フタバ産業、ファインシンター、ホーユー、マルヤス、松尾製作所、三菱電機システムサービス、武蔵精密、矢崎総業、ヤマザキマザック、リンナイ精機
大学院進学 24 名

定年のご挨拶

機械工学科

教授 福田 康明



機械会会員諸兄姉におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、3月末日をもって大学を定年退職しました。

思い出しますと、卒業当時に就職担当の藤吉先生まで出向き、就職相談にお伺いした際、君は坂井先生のもとで勉強しなさいと言われてきました。その意味がよく理解できず再度、藤吉先生を訪ねると、技術員として採用したいとのことでした。正直に言いますと、坂井先生の講義（工場管理）には興味がありましたが、教師は自分の性格と会わず、様子を見て1年程度で辞めて再就職すればと、軽い考えでございました。採用後にわかりましたが、当時には経営工学科を新設する構想が検討されているようでしたが、残念ながら設立までには至らなかったようです。

採用時の同期には江上先生、小林先生、前田先生そして私の4名でした。当時（昭和42年4月）には理工学部は中村校舎（現在の付属高校）から現在の天白校舎に移転する年でした。既に天白校舎には1年前に法商学部（現在の法学部、経営学部、経済学部）の建物が北側にありましたが、狭地の中村校舎と違い、高台の広々としており、まさに大学環境に相応しいキャンパスでありました。

当時の機械工学科の教員構成（昭和42年名城大学役員・職員名簿より）は教授5名、助教授1名、講師8名（実習担当教員を含む）、助手8名、技術員8名、事務員2名の計31名であり、現在の教員数15名と比較して倍以上の人数でありましたが、Ⅰ部（昼部）とⅡ部（夜間）を開設しており、機械工学科1学年の学生数はⅠ部とⅡ部を含めると、250名程度でありました。

私の在職期間を大別しますと、青年時代（採用～30歳代）、中年時代（40歳代）、そして高年時代（50歳～現在）の3区分に大別できます。

まず青年時代ですが、坂井先生から経営工学に関する研究内容について、多様な指導を受けました。坂井先生は、長年企業でご活躍され、技術士や中小企業診断士などの資格も持たれ、経営工学に関する理論は勿論のこと、実務面に非常に幅広い知識と経験豊富な先生でありました。当時は坂井先生から経営工学研究は理論の他、実践研究が必要であるとの指導を受け、各種のセミナーや講習会に積極的に参加しました。このことは現在でも教育・研究活動の基礎となっております。

教育活動では、学生実験として流体工学関係の実験をお手伝いしていましたが、ある日に石川先生から研

究発表の誘いがあり、最初の研究発表は日本機械学会北信越支部（長野県諏訪）で行いましたが、少し緊張して満足する発表が出来なかったことを記憶しております。他方、当時は卒業研究での学生数は20名程度おりましたが、学生達の居場所が無く、苦慮しておりましたが、幸いにも実習工場の倉庫を建てる話があり、その2階に経営工学実験室として使用することになりました。この件に関しては、当時の大西先生や藤吉先生には大変感謝しております。

中年時代になりますと、平成2年に大学院修士課程機械工学専攻、更に平成4年には博士課程が設置され、教員には必然的に学位の取得が必要になり、多くの先生方は近隣の大学で研究活動をされるようになりました。しかし、私の場合（経営工学関連）には近くに該当する研究室が無く、苦慮していましたが、ある会議（東京）で人間工学分野の権威である日本大学の久保堯夫先生と接する機会が有り、先生に指導の依頼をしましたが、多忙中との理由で断られました。しかし再三お願いしましたところ、漸くしてから先生から指導の許可を頂くことができました。その後では週末には新幹線の始発に乗り、終電で帰る生活が長年続きましたが、その努力が実り無事に学位を取得することが出来ました。今考えて見ますと、この時期が教員生活の中で最も充実した日々であったような気がします。

高年時代になりますと、学部生の他に大学院生が毎年2～4名程度の来てくれました。大学院生には研究成果を関連学会で発表することを奨励し、研究発表後の夕方には居酒屋で反省会を開くのが楽しみでした。多くの学生達の研究意欲の向上と努力により、今までに関連学会より最優秀発表賞や最優秀奨励賞等を15名の大学院生や学部生が授与しています。

学内運営では大学院主任教授、機械工学科学科長、理工学部入試委員長等の職務を歴任し、学会開催では日本人間工学会、日本生産管理学会及び日本設備管理学会の全国研究大会を本学で開催することができ、微力ながら大学及び学会の発展運営に寄与することができましたこと、関係各位の皆様にご感謝申し上げます。

機械会には本学OBと学内教員の二足の草鞋を履きながら、会計、編集および庶務等の各幹事を担当してきましたが、最近では評議員会には欠席が多く、ご迷惑をお掛けしていることをお詫び申し上げます。

最後に在職50年に渡り、皆様のご厚情に感謝申し上げますと共に、名城大学機械会の益々の発展と機械会会員諸氏のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。有難うございました。

着任のご挨拶

機械工学科 設計・生産分野

助教 吉川 泰晴



私は愛知県知多市に生まれ、2000年に名城大学理工学部機械システム工学科に入学、同大学院修士課程を経て2009年に名城大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士後期課程を修了し、博士号を授与されました。その後、豊田工業大学でポストドクトラル研究員を経て岐阜大学工学部機械システム工学科の助教を7年ほど勤め、この度、名城大学に着任することとなりました。

8年ぶりの名城大学は2号館や12号館、3号館は学生時代と変わらぬ様子ですが、キャンパス全体としてはリニューアルが進み、この春からは正門の坂道がおしゃれに変身しています。日没後はこの坂道に植えられた桜や櫻がライトアップされ、ちょっとした撮影スポットになっています。梅雨時になればアジサイも見られるようです。

キャンパスだけでなく自身の研究分野も様変わりしました。2003年の学部4年生の研究室配属の際、プラズマを用いた研究に興味を持ち、アブラハ教授のご指導のもと、学部4年生から博士後期課程の6年間、コーティングや窒化処理法の開発などの研究を行いました。卒業後は2009年11月から縁あって岐阜大学に助教として入社し、私立大学から国立大学へ、また研究分野はプラズマ表面処理から塑性加工へと変わることとなりました。

塑性加工は歴史ある加工で、BC1400年頃には石器を用いて行われていたようで、産業革命以降のハンマー、プレス機の発展とともに進歩してきました。1960年代の日本のモータリゼーションにより塑性加工技術は急速に発展し、複雑な形状の部品も成形できるようになりました。近年では環境問題の背景から高張力鋼などの高強度材料への転換や部品の一体成形などによる軽量化技術の開発が行われています。その中で自身の研究では部品の軽量化技術として注目されている板鍛造による成形法の開発を中心に行っています。板鍛造は板素材を圧縮して材料を流動させ、目標形状に成形する技術です。複雑な形状を一体成形することができま

すが、なかなか思った通りに成形することができません。その要因の一つに板素材と金型の摩擦が非常に厳しいことが挙げられます。このような塑性加工における摩擦についても研究を行っており、学生時代の表面処理技術が少なからず役に立っています。これらの研究の成果を自動車部品などの製造に応用されるよう、日々研究を積み重ねています。

塑性加工の研究を行うようになったのは、岐阜大学での環境が大きく影響しています。岐阜大学には塑性加工関連の研究室だけでなく、次世代金型技術研究センター（入社当時は金型創成技術研究センター）という金型に関連した拠点があり、同センターはプレス成形や射出成形などの金型人材育成と研究を主な目的としています。学生を対象とした教育では、目標とする製品を作るための工程設計から金型設計、金型製作、組立て、成形トライ、修正までのものづくりのプロセスを一貫して教育するシステムがあり、このカリキュラムの修了生は就職先の企業で高く評価されていました。生産人口の減少が見込まれているにもかかわらず、全国的に日本のものづくりを支える金型技術者の育成基盤が十分に整っていません。塑性加工分野は技術開発などの研究だけでなく、人材育成も必要とされていることに大きな意義を見出しました。

ご存知の通り、名城大学の周辺地域はものづくり産業が盛んです。名城大学の機械工学科はこれまで多くの人材を育成し、卒業生がこの地域の産業界で活躍しています。私もこの機械工学科に教員として加わることになり、微力ではありますが教育と研究により優秀な金型技術者を輩出し、地域および大学、そして学生の持続的な発展の一助となるよう尽力していきたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願います。

OB 近況報告

名城大学附属高等学校
学校長 岩崎 政次
昭和 50 年卒



1. はじめに

早いもので、名城大学を卒業し 42 年が経ちました。縁あって、大学時代に機械実習を教えていただいた久保田先生の紹介で附属高校の実習助手とし採用され、その後、実習教諭、教諭と任用替えになり、平成 21 年度から教頭、28 年度からは学校長として、現在も附属高校に勤務しております。特に、杉下名誉教授には学生時代の卒業論文の指導だけでなく、教員になった後も研究員として指導をしていただきましたこと、書面にてお礼申し上げます。

2. 名城大学附属高等学校の近況

名城大学附属高等学校は、名城大学とともに昨年開学 90 周年を迎え、これまでに 4 万 5 千人以上の卒業生を数えています。昭和 26 年 4 月から現在の校名に改称され、設置学科は普通科、商業科、電気科、機械科の 4 学科体制でありました。平成 11 年 4 月に、商業科、電気科、機械科を改組し、総合学科と普通科の 2 学科体制となりました。この年より普通科特別進学クラスを男女共学化し、平成 15 年に一般普通科を、翌平成 16 年には総合学科を共学化し、全校の共学化が完成年度となりました。

平成 18 年度に、中部地方の私学としては初めて文部科学省の SSH (スパー・サイエンス・ハイスクール) 事業に採択され、名城大学理工学部の先生方を中心に特別授業や課題研究に協力いただき、一挙に高大連携教育が進展しました。この事業の実施には、宇佐美初彦教授をはじめ多数の理工学部の先生方のご協力がありましたことに、改めてお礼申し上げます。平成 23 年度には、SSH 事業の 2 期目の採択があり、薬学部、農学部との連携教育事業も多くなっていきました。平成 24 年度には、SSH「地域の中核的拠点形成」プログラムにも採択され、東海地区の SSH 拠点校として UAE での海外研修事業を展開しました。平成 26 年度には、この年に始まった文部科学省の SGH (スパー・グローバ

ル・ハイスクール) 事業に、県下では本校と旭丘が採択されました。このことにより、名城大学の文系各学部との連携事業も多くなりました。平成 28 年度には、全国で 5 校目となる SSH 事業 3 期連続の採択校となりました。現在、全国の私学では数少ない (8 校)、SSH と SGH の W 指定校として全校的に課題探究型授業を導入し、特色ある教育を展開しています。

また、社会の急激なグローバル化に対応するため、海外の学校とも交流・連携を進めています。昨年度は、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、タイ、台湾などの高校が本校を訪れるとともに、本校からも修学旅行、フィールドワーク、研修旅行、研究発表などの目的で、多くの生徒が海外に出向き、多様な経験を積むことができました。

現在、附属高等学校は学校法人名城大学とともに、2026 年の開学 100 周年にむけて、「MS-26 (Meijo Strategy-2026)」という基本戦略を策定しています。そこには、大学・高校に関わるすべての人たちと共有する価値観として、「生涯学びを楽しむ (Enjoy Learning for Life)」という言葉が記されています。そして、それを実現するために附属高校では、「多様な経験を創り出す挑戦する学校」というビジョンを掲げ教育改革を進めています。

3. おわりに

このたび、機械会の会誌に附属高校の近況などを載せていただき感謝しています。今後も名城大学と附属高校が共に発展できるように、微力ながら努めてまいります。

藤本哲夫先生を偲んで

機械工学科

教授 宇佐美 勝



本年1月20日、名城大学名誉教授の藤本哲夫先生が86歳でご逝去されました。ご出身の名古屋大学から三重大学に移られた後、三重大学工学部長、名古屋大学工学部長、そして名城大学理工学部長と三大学で学部長を務められるなど、誰からも厚い信望を集められたお人柄は今更申し上げるまでもありません。ご葬儀の日、告別式会場は、名城大学理事長、学長をはじめ、機械会、校友会等から贈られた多くの供花に包まれていて、その中で、壇上に掲げられた藤本先生の微笑みを浮かべた遺影を眺めていると、先生に初めてお会いした日が懐かしく思い出されました。

当時名工大教授の藤井省三先生の紹介で初めて藤本先生にお会いしたのは、今から41年前、場所は吹上の浩養園、三重大学助教授だった藤田秀臣先生も同席されていて、そのときは、まさか将来、私も含めた3人が名城大学で教鞭をとることになろうとは思いませんでした。藤本先生は、カリフォルニア大学パークレー校で希薄気体力学を学び、その学問を日本に広めた第一人者で、ご自身の業績だけでなく多くの優秀な弟子を育てられ、皆が様々な方面で活躍しているのですが、唯一出来の悪い弟子がこの私で、大変苦労されました。このままでは学位を取らせるのもおぼつかないと、先生から、毎日早朝、マンツーマンで専門書を読むという特訓を受けたおかげで、67歳になった今でも先生より受け継いだ学問で論文を書かせて頂いています。

三重大学で工学部長を務められたのち母校の名古屋大学に戻られ、更なるご功績を積み重ね、後年（平成21年春）、瑞宝中綬章を受けられることとなります。名大ご定年間近の頃は静岡理工科大学の設立にご尽力され、定年後に袋井市へ単身赴任。平成7年に名城大学に着任され、平成9年から協議員、平成11年からは理工学部長と、学部改組の時代の難しい舵取りを行われました。情報工学科の前身となる情報科学科創設のために、自ら機械工学科から情報科学科に移られるなど、

何事も身を持って実践されるのが、多くの方から厚い信頼を集められた所以であろうと感服する次第です。ご逝去された翌日の土曜日は、理工学部では1年生の統一試験が行われた日でした。この統一試験、今は終了した系入試制度に伴って始められたものですが、この系入試も藤本先生の発案でした。

藤本先生の趣味の一つに航空機があり、三重大学の頃、明野のヘリコプター基地についていろいろ聞かされていました。名城大学航空部OBで長年部長を務められていた前田隼先生のお話では、いつも藤本先生から、グライダーにぜひ乗せてほしいと頼まれていたそうですが、理工学部長が事故にでも会ったら大変と、学部長任期終了間際によくそれが実現したそうです。当日、明野の滑空場にはお子さん二人も連れて来られて大変満足されたと聞いています。奥様には早くに先立たれ、晩年は、長らくご病気でしたが、お子さんお孫さんに囲まれて安らかに旅立たれた由、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



第9回名城大学機械会「機械会賞」授与式



受賞のことば

この度は、機械会賞を授与して頂き、大変光栄に思います。このような賞を頂きましたのも親切に御指導して下さいました清水先生をはじめ、機械工学科の先生方、研究に対する多くのご助力、ご助言を頂いた研究室の先輩方、友人のおかげであります。この場をお借りして、皆様から御礼申し上げます。大学院では、より一層勉学、研究に励み日々精進していく所存でございます。最後に、名城大学機械会の今後の発展を願いまして受賞の挨拶とさせていただきます。



石田 幸也

この度は、機械会賞という栄誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に思います。このような賞を頂くことができたのも、親切にご指導して頂いた久保貴先生をはじめ、機械工学科の先生方、また、大学の友人の支えのおかげです。この場を借りて皆様に心より感謝申し上げます。これを機により一層大学院での勉強、研究活動に精進する所存でございます。今後とも、皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。



小川 尚馬

この度は、機械会賞という栄誉ある賞を頂けることに大変喜びを感じております。このような栄誉ある賞を受賞できたのは、研究に関してご指導していただきました成田先生をはじめ、研究室の先輩方や友人、生活面で多くの支援していただきました両親など多くの方々の支援があつての結果であると感じております。この場をお借りして御礼申し上げます。大学院への進学後は勉強や研究など様々なことに挑戦し、さらに自分を高められるように努力いたす覚悟でございますので、変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。



加藤 凌

この度は、機械会賞を頂き、大変光栄に感じております。このような光栄な賞を頂きましたのも、熱心にご指導して下さった池本先生をはじめ、機械工学科の先生方、お互いに助け合い笑いあった仲間、そして生活の面などで支えてくれた家族のおかげです。この場をお借りして、皆様に心からお礼申し上げます。今後は、今回頂いた賞を誇りに、より一層、大学院での研究および勉学に取り組み、さらにレベルアップしていきたいと思っております。今後ともご指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます、お礼の挨拶とさせていただきます。



山本 紘暉

この度は、機械会賞受賞という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。受賞できたのはご指導して下さった小島先生をはじめ、支え合ってきた大学の仲間のおかげであると強く感じております。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

今後は名城大学の卒業生として感謝の気持ちを忘れることなく、社会に大きく貢献できる技術者を目指し精進する所存です。名城大学機械会の今後の発展を願いまして受賞の挨拶とさせていただきます。



吉田 康宏

トピックス

理工学研究科機械システム工学専攻が日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞

受賞者 野々垣貴裕さん（理工学研究科機械システム工学専攻修士課程 2 年、来海博央研究室）
 受賞名 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞（東海支部第 65 期総会・講演会）
 受賞日、開催地
 2016.7.15, 愛知工業大学八草キャンパス（愛知県豊田市）
 研究発表テーマ
 光ファイバーを用いた角度分散型顕微ラマン分光装置の開発



理工学研究科機械システム工学専攻が日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞

受賞者 谷口大二郎さん（理工学研究科機械システム工学専攻修士課程 2 年、来海博央研究室）
 受賞名 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞（東海支部第 65 期総会・講演会）
 受賞日、開催地
 2016.7.15, 愛知工業大学八草キャンパス（愛知県豊田市）
 研究発表テーマ
 ラマン散乱光の 2 次元直接イメージング



理工学研究科機械システム工学専攻より「文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム平成 28 年度学生研修プログラム」参加者に選出

選出者 後藤 宗さん（機械システム工学専攻修士課程 2 年、来海博央研究室）
 選出プロジェクト名 文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム平成 28 年度学生研修プログラム
 受賞日、開催地
 2016.9.7-9, 大阪大学（大阪府）
 研究発表テーマ
 透過電子顕微鏡法による材料微細構造解析



理工学研究科機械システム工学専攻が日本人間工学会東海支部研究大会で優秀奨励賞を受賞

受賞者 西田和磨さん（理工学部機械システム工学科 4 年、福田康明研究室）
 受賞名 2016 年度日本人間工学会東海支部研究大会 優秀奨励賞
 受賞日、開催地
 2016.10.15, 名古屋市立大学（愛知県）
 研究発表テーマ
 達成度手法における作業習熟の研究
 - 従来手法との比較検討 -



理工学部大槻教授と修了生の桜山さんが 2016 年度日本ばね学会賞（技術賞）を受賞

受賞者 大槻敦巳教授 桜山真吾さん（2015 年 3 月、機械システム工学専攻修士課程修了、株式会社マキタ勤務）
 受賞名 2016 年度日本ばね学会賞（技術賞）
 受賞日、開催地
 2016.11.4, 京都タワーホテル（京都府）
 研究発表テーマ
 コイルドウェーブスプリング（CWS）における非線形変形特性の解析



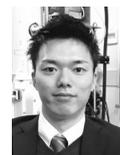
理工学部の大槻教授が 2016 年度日本ばね学会賞（功績賞）を受賞

受賞者 大槻敦巳教授
 受賞名 2016 年度日本ばね学会賞（功績賞）
 受賞日、開催地
 2016.11.4, 京都タワーホテル（京都府）



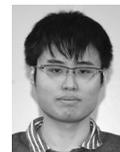
理工学研究科機械システム工学専攻が日本材料学会 X 線材料強度に関するシンポジウムで最優秀発表賞を受賞

受賞者 谷口大二郎さん（理工学研究科機械システム工学専攻修士課程 2 年、来海博央研究室）
 受賞名 日本材料学会 第 50 回 X 線材料強度に関するシンポジウム 最優秀発表賞
 受賞日、開催地
 2016.12.2, ウィル愛知（名古屋市）
 研究発表テーマ
 領域分光顕微ラマン装置によるスペクトル評価



理工学研究科機械システム工学専攻が日本設備管理学会東海支部学生研究発表大会で最優秀発表賞を受賞

受賞者 加藤慶喜さん（理工学部機械システム工学科 4 年、福田康明研究室）
 受賞名 平成 28 年度日本設備管理学会東海支部学生研究発表会最優秀発表賞
 受賞日、開催地
 2017.2.24, 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
 研究発表テーマ
 情報技術を活用した作業習熟の効果に関する研究



理工学研究科機械システム工学専攻が日本設備管理学会で学生研究発表会最優秀奨励賞を受賞

受賞者 飯田雄大さん（理工学研究科機械システム工学専攻修士課程 2 年、藤山一成研究室）
 受賞名 一般社団法人 日本設備管理学会東海支部 学生研究発表会 最優秀奨励賞
 受賞日、開催地
 2017.2.24, 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
 研究発表テーマ
 蒸気タービンのデータ同化による損傷情報解析とリスク評価



理工学部機械システム工学科が日本設備管理学会東海支部研究大会で最優秀奨励賞を受賞

受賞者 鈴木雄太さん（理工学部機械システム工学科 4 年、福田康明研究室）
 受賞名 2016 年度日本人間工学会東海支部研究大会最優秀奨励賞
 受賞日、開催地
 2017.2.24, 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
 研究発表テーマ
 設備の加工点の可視化による設備効率に関する研究



理工学研究科機械システム工学専攻が日本熱処理技術協会中部支部講演会で研究発表奨励賞を受賞

受賞者 栗本一輝さん（理工学研究科機械システム工学専攻修士課程 1 年、来海博央研究室）
 受賞名 日本熱処理技術協会中部支部 第 7 回学術講演会 研究発表奨励賞（学術研究部門）
 受賞日、開催地
 2017.3.3, 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
 研究発表テーマ
 高温環境下における遮熱コーティング内の酸化層の成長シミュレーション



第 9 回機械会杯ゴルフ大会開催のご案内

拝啓 会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は機械会活動にご支援、ご協力をいただきまして誠に有難うございます。

さて、機械会会員相互の交流を図ることを目的に、学内の先生方にも参加いただき「名城大学機械会ゴルフ大会」を下記の要領にて開催いたしますので、お忙しいと存じますが、何卒ご都合をつけ参加願えますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 10 日 (日) 集合 未定
スタート 未定
- 2 場 所 正眼寺カントリークラブ
- 3 住 所 岐阜県美濃加茂市伊深町 2345
TEL 0574-29-1891 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
- 4 会 費 プレー代 13,500 円前後 (個人精算)
(昼食 & コース売店各 1 ドリンク・パーティ & 1 ドリンク含む)
参加費 1,000 円 (パーティ会場で徴収します)
- 5 競技方法 ダブルペリア方式 競技終了後、表彰式を行います。
使用ティ レギュラーの部 : 白マーク使用
グラウンドシニアの部 : 銀マーク使用可
- 6 賞 品 機械会からの支援金があります。
- 7 参加人数 10 組 (40 名)
- 8 申し込み メール又は FAX にてエントリー願います
- 9 締め切り 定員になり次第、締切りします。

担当：梶田・大野・森澤

宛先 名城大学機械会 FAX 0568-81-8639

機械会 ゴルフ大会 参加エントリーします。

	お名前	連絡先 (住所)	卒業年度
		電話番号 (携帯)・FAX	生年月日

申込締切日: 予定を組み入れ、早めの予約をお願いします。

【問合わせ先】 Tel 090-5115-6472 Fax: 0568-81-8639 【機械会: 森澤 厚 (S45)】

: E-mail: < morisawa@ukai-s.co.jp >

平成 28 年度事業報告 (案)

平成 28 年度の事業経過は以下の通りです。

1. 名城大学機械会誌第 50 号を発行し、会員各位に送付した。
2. 名城大学機械会第 59 回総会を次の通り開催した。
 - ・日時:平成 28 年 6 月 12 日 (日) 9:30～10:20
 - ・場所:名城大学共通講義棟南館 S-402 講義室
 - ※審議・報告事項*
 - (1) 江上会長挨拶の後、平成 27 年度事業報告および会計報告がなされ、承認された。
 - (2) 平成 28 年度事業計画 (案) および予算 (案) について審議し、承認された。
 - (3) 機械会サマーフェスティバル企画説明
 - (4) 機械会新ホームページの案内
 - (5) 新役員及び新評議員紹介
3. 名城大学機械会 2016 年サマーフェスティバルを開催した。
 - ・日時:平成 28 年 7 月 16 日 (土) 18:00～20:00
 - ・場所:名古屋ガーデンパレスホテル 栄の間
 - ※参加者 164 名 (チアリーダー含む)
4. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画
5. 平成 29 年度開催予定の名城大学機械会設立 60 周年記念事業実行委員会を発足させた。
6. 次の学生行事に対し援助を行った。
 - (1) 名城大学機械会杯 (第 47 回) & 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会 (2016.9.7) への援助
 - ※江上会長が出席して挨拶および始球式を行い、親睦会において森澤副会長より優勝チーム (アブラハ研チーム) に賞状、機械会杯および優勝旗が授与され、準優勝チーム (大島研チーム)、3 位チーム (池本研チーム) にそれぞれ、賞状および副賞が手渡された。
 - (2) 日本機械学会東海学生会・第 45 回「畠山杯争奪ソフトボール大会」への援助。
 - ※今年度の学科内優勝チーム (アブラハ研チーム) が上記大会へ参加 他大学との交流、親睦を行った。
 - (3) 平成 27 年度卒業記念パーティー[2017.3.17(金)、於 ANA クラウンホテル] への援助。
 - ※江上登会長および野村副会長が出席。卒業生に対し江上会長より祝辞を送るとともに第 10 回「機械会賞」として、優れた学生 5 名に賞状および記念品を授与した。
 - (4) 準会員 (在校生) へ機械会誌「50 号」を配布した (上記 4-(3) 卒業時(2017.3.17))。
7. 機械会評議員会の開催

平成 28 年度において、7 回の評議員会 (平成 29 年 2 月 18 日(土)) 最終) を開催し、種々の審議を行った。

平成 29 年度事業計画 (案)

本会会則の目的を達成するために、以下に示す事業を計画・提案する。

1. 平成 29 年度第 60 回総会の開催
(平成 29 年 6 月 11 日、9 時 30 ～、会場:名城大学 天白キャンパス S402 号室)
2. 機械会設立 60 周年記念事業である記念式典・記念講演会・記念祝賀会を開催
3. 名城大学機械会誌第 51 号を発行する
あわせて、正会員および準会員 (在校生) へ配布する
4. 名城大学機械会杯 (第 48 回) & 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助と日本機械学会東海学生会第 46 回畠山杯争奪ソフトボール大会出場チームへ援助
5. 平成 29 年度卒業記念パーティーへの援助
6. 機械会賞の授与
7. ゴルフ大会の開催
8. 機械工学科教員との懇談会の開催
9. 各ゼミのゼミ長と機械会役員の懇談会の開催
10. 就職セミナーの開催
11. 理工学部緑風会主催送別会、理工同窓会主催行事
および各会同窓会行事への参加
12. 役員改選
13. 年 6 回程度、機械会評議員会の開催
14. その他

平成28年度 名城大学機械会 会計報告 (案)

(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) [単位:円 消費税込み]

科 目		予 算	決 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	-92,598	-92,598	
	新入会員会費	1,170,000	1,160,000	116名(28年度卒業者数)
	理工同窓会援助金	380,000	242,100	助成金(193,700)+記念品代(48,400)
	繰入金	930,000	930,000	* 運営資金積立金より繰入補填
	雑収入	2,598	9,323	懇親会残金, 利息等
合 計		2,390,000	2,248,825	
支出の部	会誌発行費	980,000	1,024,470	第50号印刷, 機械会封筒代, タグシール, 郵送代
	行事費	210,000	227,650	学生行事援助(卒業記念Party等)
	会議費	500,000	556,082	評議員会(7回), 小委員会(3回) * 交通費含む
	事務費	20,000	51,484	事務用品, Prt.インク, 貸金庫手数料(名銀)等
	運営資金積立金	0	0	
	予備費	180,000	112,161	退職記念関連, 他同窓会交流会祝儀
		500,000	731,952	第1回サマーフェスティバル関連援助費
計		2,390,000	2,703,799	
次年度繰越金			▲454,974	
合 計		2,390,000	2,248,825	

・運営資金積立金現在高
15,888,440 円

・名城大学「機械会賞」基金
2,378,267 円

(平成 29 年 3 月 31 日 現在)

会計監査報告

種々調査の結果、収支ともに相違なきことを証明します。

会計監査 鈴木吉正 ㊞

中村達郎 ㊞

平成29年度 名城大学機械会 予算 (案)

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) [単位:円 消費税込み]

科 目		予 算	備 考
収入の部	前年度繰越金	-454,974	
	新入会員会費	1,340,000	134名[29年度卒研着手者(=卒業予定者)]
	理工同窓会援助金	270,000	下部組織助成金
	繰入れ金	2,000,000	* 運営資金積立金より繰入れ
	雑収入	4,974	寄付, 利息等
合 計		3,160,000	
支出の部	会誌発行費	1,100,000	第51号印刷, 機械会封筒代, 郵送代
	行事費	660,000	学生行事援助(スポーツ大会, 卒業記念Party, ゼミ長懇談会, 就職セミナー等)
	会議費	550,000	評議員会, 役員会, 編集会議, 各種委員会等
	事務費	40,000	事務用品, はがき, 郵送費等
	HP/ウェブサイトのメンテ	150,000	HP/ウェブサイトのメンテナンス保守費用
	運営資金積立金	0	
	予備費	660,000	学科教員との懇談会, 他同窓会交流会祝儀, 定年退職記念品, 60周年関連等
合 計		3,160,000	



名城大学機械会

設立 60 周年記念事業

記念式典・記念講演会・記念祝賀会



©日本設計



記念講演会 演題 「世界を照らす LED」

2014年ノーベル物理学賞受賞者
名古屋大学 教授 天野 浩氏

日時 2017年11月11日(土)

時間 受付 13:30～

記念式典(2階 翼の間) 15:00～

会場 ホテル名古屋ガーデンパレス

記念講演会(2階 翼の間) 16:00～

※記念講演会は定員になり次第、受付を終了させていただきます。

記念祝賀会(3階 明倫の間) 17:30～

会費 一般会費 **¥10,000**
※同伴可(無料)

院生会費 **¥2,000**

お問い合わせ

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地
名城大学理工学部機械工学科内 名城大学機械会
<http://www.meijo-kikaikai.jp/index.html>



主催 名城大学機械会